

ひらつか

多くの人が訪れた場所



昭和41年5月に撮影された、市役所旧本庁舎1階の市民課。戸籍や印鑑証明などの手続きに、多くの人が訪れていました。半世紀にわたって毎日市民が訪れた旧本庁舎が、平成26年7月に役目を終えました。

目次 1～3面…**特集** 市民と共に50年…役目を終えた市役所旧本庁舎の歴史を写真とともに振り返ります。
4～7面…募集・お知らせ・健康と福祉・スポーツ
8面…ヒラツカルチャー「博物館モノ語り」

ひらつか
議会だより

平塚市の人口と世帯数
<平成26年7月1日現在()内は前月比>
人 口 257,333人…(-21)
世帯数 106,157世帯…(+22)

◎発行 平塚市 ◎編集 秘書広報課
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号
☎0463-23-1111 0463-23-9467
<http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/>

市民と共に 50年 旧本庁舎での業務が終了



昭和40年1月23日。業務開始から約2カ月の旧本庁舎。左手は旧議事堂。手前には噴水と池がありました。



昭和39年当時の広報ひらつか第156号を市ウェブ「広報ひらつかデジタルアーカイブ」でご覧いただけます。

昭和39年に落成した旧本庁舎。新庁舎への移転が完了し、7月末から取り壊しが始まりました。今号では旧本庁舎で働いていた人の話を交えながら、50年の歩みを振り返ります。

問 庁舎管理課 ☎21-9608

旧庁舎と共に働いた

錦町から浅間町へ

昭和28年、平成7年に、市役所に勤めていた小出茂さん（写真）。「最初の11年間は浅間



町の旧本庁舎よりさらに古い、平塚が『市』でなく『町』だったところからの庁舎で働いていました」と話します。当初の庁舎は錦町で、現在の市民センター向かい側の錦町駐車場付近にありました。

「錦町から浅間町に庁舎を移したのは、この周辺を官庁街としてまとめる狙いもありました。浅間町近くの西八幡に県の合同庁舎が計画されていました」と、説明します。

旧本庁舎は昭和38年3月に着工。翌39年11月3日、文化の日に落成し、9日に開庁。総工費は約9億円でした。「昭和50年には人口が25万人に達

する」という見込みで建設されました。

市民に役立つ仕事を

小出さんは移転のとき、市職員の人事などを担当する人事課（現・職員課）にいました。「移転作業が夜中までかかり、職員の布団を手配したのを鮮明に覚えています。私自身は、旧本庁舎への移転とともに、議会局に異動になりました。事務所は議事堂でしたので、移転をしたのに、しばらく旧本庁舎には入りませんでした」

思い出深い場所は議事堂と、旧本庁舎1階の市民ホールだという小出さん。「当時は自由民主党と日本社会党が対立する55年体制の真っただ中。市議会も大きな影響を受け『徹夜議会』などといって、激しい議論が夜を徹して繰り返られるのも当たり前でした」と話します。「職員も、議事堂中は夜中まで駆け回っていました。議事堂と共に、本当に多くの時間を過ご

今後の業務は新庁舎へ

業務が完全移行しました

7月22日に旧本庁舎、西・東・南附属庁舎、旧新館（現・市庁舎別館）の業務が、市庁舎本館（新庁舎）に完全移行しました。現在は旧本庁舎・附属庁舎へ立ち入りできません。市庁舎本館の各課の配置は広報ひらつか6月第3金曜日号でご確認ください。バックナンバーは、市ウェブでご覧いただけます。

車は西八幡臨時駐車場に駐車を

新庁舎の2期工事のため、西駐車場を閉鎖しました。車で来庁する場合は、美術館東側の西八幡臨時駐車場（市庁舎本館から北に約400m）をご利用ください。なお、障がいのある方が使える駐車場を、市庁舎本館の南側に2台分設置しています。駐輪場も本館南側にあります。

しました」と振り返ります。

市職員共済会の文化部長も務め、市民ホールで文化部の発表・展示をしていた小出さん。「春と秋に絵画や俳句、写真などを掲示していました。市民にも好評で、展示を楽しみに待ってくれていた方もいたようです。私自身は写真を撮るのが趣味で、風景写真を発表していました」とほほ笑みます。

「建物は単なる『働く場所』だけではないと思います」と

食堂でラーメンを担当

旧本庁舎地下の食堂に34年間勤めていた、宮川貞江さん（3面写真）。

「ラーメンを担当していて、

小出さんは強調します。平成2（1990）年の「サーフ90」という県を挙げたイベントでは、市の責任者を務めました。「旧本庁舎とともにこの大きな仕事に取り組んだ、という思いがあります。議事堂も含めて、市役所人生の大部分を過ごして来た場所なので、取り壊しは少し寂しいですね。今の職員は、これから新しい庁舎で、市民の皆さんに役立つ仕事に積極的に取り組んでほしいです」

仕込みからお客さんに提供するまでを1人でやっています。常連さんも結構いたので、仲良くさせていただきました」



H8
平成8年6月。正面玄関に掲げられた七夕飾り。大きくす玉のほか、短冊が付いた竹飾りも掲げられました。



H13
平成13年1月。同年4月から特例市になるのを受け、正面バルコニーに横断幕が掲げられました。



H26
平成26年7月。新庁舎から見た旧日本庁舎の東側部分。7月21日で50年の役目を終えました。



S43
昭和43年8月。1階の市民相談室で、法律相談の順番を待つ皆さん。毎月第1土曜日に相談が開かれていました。毎回数十人が集まり、10人の人権擁護委員が、夕方遅くまで相談に応じていました。



S57
昭和57年4月の市民ホール。市制施行50周年を記念した「人口予想クイズ」の記念品贈呈式が行われました。1,167件の応募があり、3人が的中、当時の人口は21万9,062人でした。



S46
昭和46年11月。2階の放送室。市内に「迷子の子どもを探しています」「土佐犬が逃げたから気を付けてほしい」などの放送をしていました。



S57
昭和57年1月。玄関前での消防出初め式。現在は総合公園で行っています。木やり、はしご乗り、放水デモンストレーションなどが行われていました。

写真で振り返る 旧日本庁舎



S39
昭和39年12月。1階ホールのブロンズ像除幕式。中央はあいさつをする加藤一太郎元市長。この像は新庁舎に移設する予定です。



S41
昭和41年3月。市庁舎の模型と、日本科学防火協会(当時)の優秀防火建築表彰のプレート。「バルコニーを設け内装は不燃材を使用」「建物内に消防本部もあり管理指導が行き届いている」など市庁舎建築の模範となる建物として、全国3位を獲得しました。

旧日本庁舎1階ホールにあった壁面ガラリ(通風のための換気口の目隠し。右と、壁面レリーフ(左)を、新庁舎に移設しました。壁面ガラリは新庁舎4階の秘書広報課秘書担当入口に、壁面レリーフは8階の市議会議場前のラウンジにあります。いずれも、作品の保存を望む声を受け設置されました。



旧日本庁舎から新庁舎にレリーフなどを移設 記憶を受け継ぐ……



「たよ」と話します。食堂ではタンメンやキムチラーメンなどいろいろなメニューを出していました。「一番人気があったのは、やっぱり普通のラーメン。昔から変わらない味が評判でしたね」。15年くらい前はとも混んでいて、お客さんが座れなくなることもあったといいます。「そのころラーメンは、

1日150食くらい出ていましたね。いっぺんに注文が来ると、さばくのが大変ですね。きついなあ、やりたくないなあと思ってたことも多かった」と笑います。「でも、開き直るわけじゃないけれど、とにかく頑張ろう! って思いでやってきたんだよね」。

宮川さんが長年勤めた食堂も、旧日本庁舎の閉鎖を前に閉店しました。「ちょっと寂しいけど、肩の荷が下りたっていうのが正直な気持ち。たくさんのお客さんに出会えたのが良い思い出かな」。